

発行所 (郵便番号100)
 東京都千代田区丸の内2-4-1
 丸ノ内ビルディング781号室
 社団法人スウェーデン社会研究所
 Tel (212) 4007・1447
 編集責任者 高須裕三
 印刷所 関東図書株式会社
 定価200円 (年間購読料参千円)
 1978年4月25日発行
 第10巻 第4号
 (毎月1回25日発行)
 昭和44年12月23日 第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol.10 No.4

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
 Marunouchi-Bldg., No. 781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

「王位継承法」改正議決さる

The Riksdag decided to amend the
 1810 Act of Succession

日本大学教授 高須裕三
 Prof. Yuzo Takasu

本誌昨年7月号には「スウェーデンに王女ご誕生——王制との関連で政治的論議に波及か——」という題の記事が載っている。

現国王と王妃との間に、昨夏、第1子として王女さま (Victoria) がご誕生になった。

スウェーデンの現在の王位継承法 (1810年に制定) では、継承者を男子に限っているの、現国王の第2子以下に男子誕生となるならば、現王朝は存続することとなるが、もし将来、男子に恵まれずと仮定するならば、いまの王朝は将来絶えることとなる。そこで王制賛成者は、現在の王位継承法を改正して、王女も継承可能とすべきだと主張し、他方、王制消極論者は、現法制の維持がよいとの意見であった。

王制賛成者が保守陣営に多いのは当然の次第であるが、保守側としては、40何年ぶりに「非社会主義」政権が実現している今こそ、王女も継承可能ということに「王位継承法」を改正する好機だと考えていた。

そこで保守陣営の政府は、善は急げとばかり、現行「王位継承法」改正を国会に提案し、本年4月20日、159対18票で改正決定、王女も王位継承者となった。ただしこの改正は、憲法の修正となるので、次回の総選挙 (1979年9月) 以後の国会で、もう一度同様の議決を必要とする段取りである。

ちなみに国会の議席は、現在349で、内訳は、

社会民主党152、共産党17、中央党86、穏健党55、自由党39である。

社会民主党は、その党綱領の中で共和政体の目標を掲げているので、今回の議決に際しては、棄権することに党議は決まっていた。けれども自己の信念に基いて敢えて政府案に反対投票した社民党議員が4人あった。また賛成投票の社民党議員も2人あった。さらに自由党の中にも棄権した1人がいた。

さらに穏健党 (もと保守党) 議員 Wactmeister 氏のように、王位継承権については男子は女子に優先すべしと主張した者があり、この意見の同調者には穏健党8、自由党1、中央党4を数えたという。

なお今回の「王位継承法」改正の議決は、遡及効果をもつので、上述のように1979年総選挙後の国会でもう一度この改正法が承認される以前に、第2子としての男子が誕生したとしても、いまのVictoria王女が、王位継承権者の第1順位を保持することとなるのである。

No. 4 目次

「王位継承法」改正議決さる	高須 裕三	1
世論調査：社民党優勢	高須 裕三	2
北欧留学日誌	福田 雅一	3
最近のスウェーデン経済・社会ニュース		5

世論調査：社民党優勢

SIFO's Poll : Palme is in the Lead

5月8日(月)のDagens Nyheter紙によれば、SIFO(スウェーデン世論調査研究所)恒例の、諸政党支持世論調査本年4月分の結果は、以下の通りである。

	1978年 4月	1978 3月	1978 2月	1978 1月	1977 4月	1976 4月	1975 4月	1974 4月	1976年9月 総選挙
穏健党	16	16.5	15.5	17	15.5	19.5	17	16	15.6
自由党	12	12	10.5	9	10.5	12	6	6.5	11.1
中央党	18.5	18.5	19	20	20.5	22.5	24.5	26.5	24.1
社民党	48	46	47.5	48	49	38.5	45	43.5	42.7
共産党	4	4.5	5.5	4	2.5	4.5	4.5	5	4.8

上記のうち、本年3月の調査は、3月8日~14日と、3月29日~4月4日の期間に行なわれ、4月分調査は4月12日~25日の期間に行なわれた。何れも調査員の有権者宅への訪問で調査され、回答は用紙に記入、封緘されて調査員に手渡された。

つぎに各党人気の最近の傾向を見るに、第1に穏健党は、76年総選挙以後、あまり大きな変化はない。現状維持と略称されよう。

第2に自由党は、76年総選挙以後、下り坂気味であったが、本年3月より回復に転じた。Olla Ullsten氏が自由党々首に就任したのが本年3月4日であるので、上記3月分4月分の支持率の好転は、新党首への国民の好意的態度と解されてよいであろう。

第3に中央党は、76年総選挙以後、人気衰退の傾向が明白である。これに反し、

第4に社民党は、76年総選挙以後、著しく上げ潮の傾向を見せている。これは後述の国民の原子力発電への態度とも関連している。

第5に共産党は、76年総選挙以後、一時2.5%へと下落したが再び4%台を維持ないしはややそれを上廻っている。ちなみにスウェーデンでは、総選挙での得票率が4%以下になるとその政党の議席は0となる規則である。

そこで本年4月の各党の支持率を「社会主義ブロック」と「ブルジョア・ブロック」とに大別すると、前者は48+4=52%、後者は16+12+18.5

=46.5%となって、5.5%の差をつけて、前者優勢の現状である。

そこで来たるべき79年9月の総選挙の後、社民党内閣復活の可能性は濃くなってきていると見るべきであろう。そうなる場合、前頁に記した「王女の王位継承権」の法律改正の実現にも変化が生ずるかもしれないのである。

上記のような社民党内閣復活への兆候は、核エネルギー問題に関する国民のアレルギー離脱の線についても見ら

れるようである。

4月21日付のSvenska Dagbladet紙(Dagens Nyheter紙も)は、2月に行なわれた核エネルギー世論調査の結果を、賛成46%、反対32%と報じている。約2年前の76年1月(当時は野党・中央党による与党・社民党攻撃の主要手段として核発電が狙上へのせられていた)の核エネルギー世論調査では、賛成34%に対し反対は54%もあったのに比べると、世論の変転ぶりに改めて感慨の深いものがある。

パルメ社民党々首は、早速にコメントして「この調査結果は、中央党の核エネルギー政策に対するのみならず、中央党の政治の行き方そのものに対する世論の逆流である」と氣勢をあげた。

ちなみに76年総選挙の1か月前の世論調査では、核エネルギー問題に関し、中央党支持48%に対し、社民党支持は30%に過ぎなかったのである。

(高 須 裕 三)
Yuzo Takasu

—KFスカラシップによる協同組合の研究(1)—

研究員 日本大学専任講師 福 田 雅 一

同氏は、前号でも紹介したとおり、KFの招聘で、協同組合運動の研究のため、去る3月1日より約1ヶ月半北欧各国を歴訪したが、各地で好意ある応待をうけたので、その事情を記した同氏の日誌を掲載して紹介すると共に、当研究所としても謝意を表する次第であります。

コペンハーゲンでは、3/8の朝9時にエリクセン氏がホテルまで迎えに来てくれました。内藤先生をはじめ昭和46年度の視察団のことをよく覚えており、FDB本部へ行く途中、車の中でよもやま話をしました。その中で、今回KFから招かれたことを告げると、彼はビックリし、KFはこの2~3年業績が悪くて大きな赤字を出しており、そんな余裕がよくあったものだといっていました。FDB本部では彼のofficeに案内されて、そこでFDBの最近の活動状況について説明を受け、そのあとエリクセン氏のBossでDirectorのErik Hansenに紹介され、またエコノミストのMogens Godt氏に紹介されて、一緒に話しながらLunchを御馳走になりました。エリクセン氏のofficeに戻って外を見るとミゾレ交りの雪が降り出しており、さすがに北国へ来たのだなあとの実感が湧いてきました。

ボランティアチェーン店舗と一体となった新しいタイプの組合店舗を見せるといって案内され、そのあと駅前にある高級品専門の組合店舗も見学させてもらいました。

翌3/9午前中に訪問する予定はCentral Co-operative Committeeです。そこではSecretaryのVestergaard氏が待っておられ、FDB以外のデンマークにおける協同組合運動についていろいろの話を伺いました。そのうえ、この2月に発行されたばかりというThe Danisk Co-operative movementと題する本をいただきました。デンマークではAgricultural Co-operative movementの方が強力なようです。

その日の午後、デンマークの消費者委員会を訪問しました。面会したのは女性lawyerで、デンマークの消費者運動についてあらましを説明して

くれました。

その日の夜行でいよいよスウェーデン入りです。国境を越えるところまで起きていましたが、それから寝てしまいました。午前6時頃フト目を醒ましブラインドを開けますと、そこは銀世界でした。

3/10朝8時44分定刻に汽車はストックホルム駅に到着しました。ホームには懐しいルンドベリ氏が出迎えに来てくれていました。直ちにKF本部へ行き、彼のofficeで私の調査スケジュールを打合わせたり、彼に頼まれて私が持参した日本の資料について説明したりして午前中一杯かかりました。

事前に訪問したいところを知らせてありましたので、それに基づいて彼は私の訪問スケジュールを作ってくれておりました。それによりますと、午前中1~2カ所、午後1カ所というかなりハードなものです。

私のストックホルム滞在日数を勘案してのもので、ベストのものでありましょう。

Lunchの後、私の宿泊所となるべきVår gårdのEktoftaというゲスト・ハウスに案内されました。

それはVår gård本部の裏の丘の上に建っており、2階建てで上下16部屋あります。私に割当てられた部屋は2階の入口に最も近いところで、入口の左側は簡単な台所設備があり、右側にはトイレとシャワーがあります。入口を2m程入るとそこが日本式にいうと10帖程の広さで、ベッドのほか机、小タンス、テーブル、椅子二脚などが備えられています。海に面した見晴しの良い部屋で、KFの心配りに感激致しました。その夜は大野先生を訪問し、久しぶりに奥様の家庭料理を御馳走になりました。

Vår gård のある Saltsjöbaden から Slussen までの電車運賃は片道 7.5 クローナ、地下鉄が 3 クローナ、往復すれば、それだけで 21 クローナです。内藤先生に教えていただいた Tourist Card を翌日買いました。70 クローナで、3 月一杯有効です。4 日往復すればペイするほか、バスも利用できますので、3 日位でペイでき、非常に経済的です。

土曜と日曜は Vård gård の食堂が休みになりますので、駅前にある Grand Hotel のレストランを利用することになっております。

その Grand Hotel はストックホルム市内の Grand Hotel と同経営とのことで、昨年 12 月に O P E C 主脳会議が開かれたほか、E F T A など重要な国際会議が何度も開かれている由緒のある Hotel だそうです。

3/12 の日曜日は快晴、Grand Hotel のレストランから海が真正面に見え、完全に凍結した海の上を人が歩いています。その向うには大勢の人が穴釣りをしているのも見えます。

3/13 (月) スtockホルムでの活動開始です。最初は消費者庁に朝 9 時のアポイントメントです。朝 6 時半に起きて用意をし、7 時 45 分から始まる Vår gård の朝食を食べに行き、駅へ向いましたが、電車が出たばかりです。この電車は朝のラッシュはおおよそ 20 分間隔、昼及び夜は 30 分あるいはそれ以上の間隔になります。

消費者庁に着くと約束の時間を 15 分程過ぎておりました。

消費者庁では女性 3 人に迎えられ、早速スウェーデンの消費者運動全般について説明を受けました。1 時間半ほど経ってから、地方政府で消費者行政を指導しているという 50 年配の女性が現れ、地方政府の消費者行政につきましても説明を受けました。そのあと職員食堂で Lunch を御馳走になり、次の予定である K F の組合員及び一般消費者向け教育を担当している Jordin 氏に会いに行くことにしました。

K F では Jordin 氏が待っており、小会議室で話を聴くことになりましたが、そこへもう一人がやって来ました。聴きますと、もう一人の人は K F の通訳です。スウェーデン人のかなりインテリでも英語が話せない人がいるのを知り、やや安心しました。

通訳付きでしたので、私にも考える余裕があり、

対話はほぼ 100% 理解できました。午後 4 時頃退去し、つづいて約束していた Swedish Institute を訪問しました。閉館少し前でしたが、私に返事をくれた Björlin 氏に会うことができました。

Director の Hildeman 氏は出張中とのことで会えませんでした。しかし、Björlin 氏は親切に Central Bank, NK 及び I C A を訪問することについて 3 月末の アレンジ を引き受けてくれました。

翌 3/14 は朝 9 時に L R F (農業者連盟) を訪問しました。出迎えてくれたのは、前回も全農の方たちが世話になったことのある Mrs. Margareta Karlström でした。

まず、最初に紹介されたのは Mr. Tore Johansson で、彼は来年 50 周年を迎える L R F の年史を担当している経済史担当のエコノミストで、意気投合して予定の時間をオーバーして話込んでしまいました。

Mrs. Karlström にせかされて話を打ち切り、次に L O (労働組合連盟) から L R F にきて、L R F 傘下の企業約 600 の労働問題を担当している Mr. Mats Svedin に紹介され、1977 年 1 月成立した労働者の経営参加を義務づける法律の内容とか、L R F 全体の労働事情について話を伺いました。そのあと Mrs. Karlström から総括的な話を聴き、Lunch を御馳走になって、L R F を辞しました。

次の訪問先の Folksam に着いたのは、約束の 2 時を 10 分ばかり過ぎておりましたが、気持良く迎えられました。

調査部の managing director の Eliasson 氏と人事部の Lindberg 氏が会ってくれました。

保険業界全般の動向と Folksam の地位、その業績などを伺いました。最大の出資者である K F 自身 75、76 年と大きな赤字を出していますが、Folksam もそれに劣らず大きな赤字を出しています。

その理由を聞きますと、①インフレ、②自動車事故がふえたことを挙げます。インフレだと、長期の生命保険の場合など、むしろ保険会社にとってプラスではないかと反論しますと、逆に目減りが認識されて加入者が減ったとのことでした。

全資産 8 億 kr の運用は、大部分が債券投資、1 億 kr は K F への貸付 (あとで K F の Treasurer に尋ねますと 7,000 万 kr とのことでした。)です。

契約高は30億 kr で業界第2位。この2～3年 labor insurance が伸びており、それに期待しているとのこと。

3/15 (水) 前日までの穏かな天気とは打って変わり、朝起きると猛烈な吹雪です。この日は朝8時30分にKFの Treasurer、Zachrisson 氏と会うことになっています。

定刻8時半に同氏が出勤し、すぐ別室で説明を受けました。

KFのCoop Societyに関連した機能として同氏は次の三つをあげました。

- ① wholesaler
- ② banker
- ③ financial advisor

それに生産部門、他の各種協同組合への出資を合わせると、KFはまさにコングロマリットであるとのこと。

KFの総資本のうち自己資本を除くと、最も多いのが組合員預金、これは各単協で預金を扱い、多いのは5年の定期預金です。次はCo-operative pension Fundからの借入金で、これは協組従業員全体の年金基金です。

その次が資本市場からの調達で、そのうちでは15～20年の債券発行が最も多く、市中銀行からの借入金はごくわずかです。Folksamからの借入は全体から見るとそれ程大きくはありません。昨年来国際収支の悪化を是正するため高金利政策がとられており、公定歩合が7½%、3カ月の借入金利は11%強とのこと。もっといろいろ話したかったのですが、次のアポイントがHSB(借家人貯蓄建築協同組合)で10時ということになっており、再度会ってもらうことを申し入れましたところ快諾をえまして、9時半にKFを出てHSBへ向いました。

教えられた地下鉄の駅で降り、地上へ出ましたが、折からの猛吹雪もあって方角がわからず、ウロウロしたため約10分遅刻しました。

しかし、担当のombudsman、Johnsson氏に温く迎えられました。

同氏は外国人が訪問するとすべて対応しているようで、内藤先生のことにもよく覚えていました。昨年11月クアラルンプールで開かれたICA大会の帰途日本に立寄り、2～3カ所で講演した由。住宅公団との接触も常時あるようで、日本の事情をよく知っていました。

そのあと昼食を一緒にして辞去しようとする、同氏は新鮮な空気を吸いたいからそこまで一緒に行こうとって次の目的地の卸小売研究所まで、猛烈な吹雪のなかを地下鉄からバスに乗継ぐコースを親切にも案内してくれました。

HUI(卸小売研究所)のLarsson氏は視野が広く、流通業界全般について詳しい説明を聴き、大変有益でした。スウェーデン経済全体の動向から始まって、生活水準とその見通し、小売業界の動向、デパートの動向、KF、NK-Åhréns、ICAの状況、DAGABの組織等多岐にわたりました。

そこでICAについて、これはバイイング・グループかと聞きましたところ、確かに当初はバイイング・グループであったが、現在はバイイングのほか、広告、finance、店舗設計などすべてについて面倒をみているので、現在ではボランティア・チェーンというべきだと教えてくれました。

HUIを4時頃出て日本大使館に向いました。大使館は4時閉館ですすでに門が閉っていましたが、インターホンで来意を告げ開けてもらいました。

松下参事官はスウェーデン語がよくお出来るになるので、当館では非常にお忙しいようです。スウェーデン政府当局との折衝のほか、主要紙には全部目を通し、また退任後や休日にもラジオ、テレビを見て重要なニュースがあれば本省へ報告すること、まさに24時間勤務のような印象を受けました。1時間ばかりお話をし、改めて夕食に招待されることになり、辞去しました。(つづく)

最近のスウェーデン経済・社会ニュース

スウェーデンの賃金コスト

長い間工業国間で最高のものであったスウェーデンに於ける賃金コストは、このほどOECD当局の手で公表された分析が正しいとすれば、1978年にはノルウェーとベルギーにとって替えられることになろう。

この事実はスウェーデン事業主連盟(SAF)の機関誌アルベツギーヴァレン(Arbetsgivaren)の最新号に公表されたものである。

この分析によれば社会福祉費、税金等を含んだスウェーデンの平均時間あたり賃金は、今年で約44クローナ(\$1=4.70クローナで換算して9.36

ドル)に上昇しよう。一方では、ノルウェーとベルギーの時間あたりコストは46クローナ(2,300円)と45クローナ(2,250円)となろう。

デンマーク、オランダ、西独が高賃金グループに入り、このグループのコストは43クローナ(2,150円)の水準に達し、一方これに対応するアメリカとカナダの数字は39(1,950円)と37クローナ(1,850円)である。英国はずっと下にいて21クローナ(1,050円)にすぎない。

他国との対比におけるこの急激な変化は、主として昨年行なわれたクローナの切り下げによるものと、他国での賃金の急上昇とによるものの両方の結果である。

従業員基金についての提案

社会民主党と労働組合連合(L.O)から成る作業グループは、この2月23日に、利益配分/株式保有、及び資本型成案を特色とする「従業員基金」を作り出す為の提案を行った。

この提案の内容によれば、現在従業員500人以上を持つ全ての株式会社一推定で現在200社はあると思われる一にとっては絶対のものとなり、各社の税前利益の20%は毎年株式の型でこの基金に転換される。これは従業員にとっての集合的財産となり、その代表者及び労働組合の手で運営されてゆく。

公共及び共同企業及び従業員数500人以下の企業の場合には、この計画への参加は任意である。これに参加しない企業はその賃金台帳の合計の1%を、中小企業の運営における従業員の共同決定参画を増進する為の特別基金として、寄付しなければならない。

この計画では、四年後には3%にまで達する賃金と給与の一定割合を、企業の為に金を貸出す為の二つの全国組織と24の地区組織の為にしておくことになる。

この提案は目下社会民主党内と労働組合内で検討されており、最終案はこの秋に党大会に提出される。

この計画は雇用主と産業界全体からこの強制的な内容について批判をうけている。これらの人々は、この案が労働組合連合のエコノミスト、ルドルフ・メイドネル(Rudolf Meidner)氏が1975年に提案した案とほとんど変わらないと批判している。

1980~2000年の自動車交通について

このほど王立技術アカデミー(IVA)が行っ

た1980~2000年代に於ける自動車についての未来学的研究の結果によれば、スウェーデンの自動車台数が増加しつつけたとしても、1990年までは石油消費の上昇問題を解決することはできる。この自動車についての状況は、環境、経済及び安全の観点から専門家達の手で検討された。

将来の車は今日の車よりも走行費が安く、石油の消費が少ないものでなくてはならないが、この為に必要な技術改良によって、社会及び消費者が負わねばならないコストはより高いものとなろう。

もし1985年までに新車売上中ディーゼル・カーが30%をしめる様なになれば、この開発成果が完全にあらわれるとすると2010年までに石油の全消費量は6~7%低下しよう。トラックのデザインの改良に加えてけん引力を強化合理化することによって20世紀末までにはエネルギー消費を30~40%節約できることになる。

人口の分散の状態からして、スウェーデンの公共交通システムは西欧のいかなる国よりも非効率である。車への依存は今日も将来も高く、もし個人車が大幅に減少することになれば、公共運輸は現在とかわらない能力のまま現在の二倍の距離を人々を職場から住居へと運ばねばならないことになる。従って同アカデミーは都市用の「バス列車」と田舎用タクシースービスの開発を特にこの解決策としてよびかけている。

スウェーデンのトラック燃料節約計画

燃料消費を最少限に減少させるための大型道路運搬車の運転に関するより科学的な企画がスウェーデンのサーブ・スカニア(Saab-Scania)グループのスカニアトラック部門と道路運搬業者、組合、個々の企業の共同で1978年度中に試験される予定である。

同計画は30社の道路運搬業者に操作される大型トラックに関して年間走行距離を総計200,000キロメートルに規定するものである。これにかかわる100人の運転手はまずエネルギー節約運転技術の訓練及び指導を受ける。

この新しい試みは、最少限の燃料消費における最適なスピード達成を目指すものである。

ギアはできるだけ切り変える、革新は最少限にとどめる。新企画に燃料の節約ばかりではなく、車体や車の損傷も減少させるであろう。

ディーゼル機関の発達と送電の変更によって、同様にかかりの燃料が節約される。同計画に使わ

れる二種のエンジンはそれぞれ283KW、213KWで、共に過給され事実上完全な燃料の燃焼を特徴としている。

同企画にかかわる大型スカニアトラックのいづれにも回転速度計、重力計、燃料計などを含む特殊計器が取り付けられる。またデータは日誌に記録され、その中に燃料消費、発着時の車体の重さが記入される。あらゆるデータは後でコンピューター処理され、分析される。

核燃料再生による廃棄物の貯蔵

12月上旬に公表された550ページの報告書によると、郡の核施設のスポンサーで、KBS核廃棄物計画によって、核燃料再生後の廃棄物を処理し貯えるシステムが開発された。来年度にこの英訳が出る予定である。

これは現在までに世界で行なわれた最も包括的な計画であるといわれ核利用の専門家450人を含むあらゆるシリーズの科学的調査や、工業のコンサルタント及び代表と同様、その他の研究団体を含むものである。

海外の消費燃料の高水準の廃棄物は、1990年代初頭にスウェーデンに回収されることが期待される。KBS計画はこれらの貯蔵をガラスに入れ、クロム、ニッケル鋼のシリンダーで囲み、化合物の施設を30年間あてがうもので、そこでは乾燥状態に保たれ、監視のもとにおかれる。

各シリンダーは、直径0.4メートル、長さ1.5メートルで、消費燃料1トンの廃棄物を収容できる。

かりに13の原子炉からの燃料が30年間貯えられたとすると、廃棄物ガラスの総数は9,000個のシリンダーとなる。30年後には環境に対する熱消費は半分に減少していることになる。

最終的な貯蔵は早くて2020年までには実施され、地表面下500メートルの結晶状の結晶岩をくり抜いた施設で行なわれる予定である。廃棄物シリンダーは、厚さ100ミリメートルの鉛の層のカプセルに包まれ、厚さ6ミリメートルのチタンにおおわれて、石英砂とベントナイトに囲まれる。こう

して最少推定寿命500~1,000年可能となる。

報告書は、廃棄物処理のあらゆる段階における放射性質の漏えいの危険は、原子力発電所よりはるかに少ないと断言している。ガラスは常に低温に保たれ、圧力がかからないようにカプセルでおおわれている。最終的処理施設からの放出は、地下水によってのみおこり得るが、最悪の状態でも200,000年後も年間13ミリレムを越すことはない。これは、勧告の最高限度を全く下回るもので、実際の放射線量は、これの1%を越すことはないであろう。

消費燃料の直接処理の可能性に関する最終報告1978年上半期に公表される予定である。

有用なる資材の回収

ストックホルム市当局はこの国で初めての、家庭廃棄物から有用な材料を回収する為の工場建設を決定した。フレクト (Fläkt) グループの手で開発されたこの工場はレーヴスタ (Lövsta) にある市の廃棄物焼却工場に設置される。

1980年には稼動に入る予定のこの総工費2,600万クローナ (13億円) の工場は、最初50,000トンの処理能力をもち、同焼却炉の焼却量75,000トンを50%も下げることができると言われる。テストの結果では、紙の75%、プラスチックの三分の二、鉄などの90%が回収できる。

さらにまた利点としてこの工場は重量で25%にもあたる有機物の残かすを作り出し、これは土壌の育成に特にむいた材料となる。残りかす中でわずか20%の分のみが、最終的に焼却にまわされる。

乾燥方式のこの新しいフレクト社の技術は全ての廃棄物を焼却するコストよりも大幅に低いというトンあたりのコストひき下げに成功している。回収した材料を再利用する方が原材料から新しく作り出すよりも必要なエネルギーは少ないので、エネルギーの消費節約にも役立っている。

この工場はこの種のものとしては、オランダ政府国有の企業がこの同じ処理装置を作った完全な工場を発注しているので世界で第二のものである。

職場組織の 改善と能率

日本大学教授

高須裕三

中央大学教授

丸尾直美 編著

トヨタ自動車工業(株)取締役

坪井珍彦

276頁 定価 1200円
送料 160円

職場の再組織

労働環境をどう人間化するか
ライン作業の再組織と改善
コンベア作業の問題と改善の方向
「マン・マシン」のあり方

日本における
労働環境の特
殊性と対策

自動車産業における労働の人間
化—トヨタ自動車工業
家庭電器産業における労働の人
間化—松下電器、三洋電機、三
菱電機
自動車部品メーカーのモジュ
ール方式—関東精器、日本ラヂエ
ーター

海外企業の職場再
組織の実態

「組織崩壊現象」に悩む企業
作業再組織による画期的な新工
場
「生産グループ」「推進グルー
プ」による職場の活性化
ホワイトカラー労働にも人間化
を
「ジョブ・エンリッチメント」
の成功例

頻発する山ネコ・スト、転職率とアブセンティズム（計画的欠勤）の著しい増加、組織の規律喪失ないしデイスオーガナイゼーション（組織崩壊）現象の兆候など、先進諸国の工場および労使関係は重大な転換期に直面していると言えよう。

他方、こうした現象に対応する新しい自律的秩序の兆候も各国にみられはじめている。本書で詳細に紹介されているスウェーデンのボルボ社、サーブ・スカニア社、あるいはアメリカのゼネラル・フーズ・トペカ工場などは、作業の画期的な再組織と新方式の導入によって、現代の工場が抱えている問題を解決し、環境改善と能率の両立にめざましい成果をあげている先駆的工場の好例であろう。

日本の場合はどうであろうか。日本はヨーロッパや

アメリカとは事情が違う、日本人はもともと勤勉であるし、単一民族であるからコミュニケーションもうまくいっているし、人間的参加の組織もでき上がっている、と見る向きが多いようである。しかし人の意識というものは、契機さえあれば大変化し得るものである。オイル・ショックを契機とした消費者意識の変化で我々はそれを経験済みである。また、よごれる仕事を極端に嫌い、阻害意識の強い最近の若年労働者をつなぎ止めておくために、現場の管理者がどんなに頭を悩ませているかは、もっと知られるべきである。そういう意味で、本書に紹介されているトヨタ、松下電器などの日本の先駆的工場の努力は、大きな参考になるであろう。

〒 100 東京都千代田区霞が関 1-4-2 電話 (03) 504-6515 振替東京 25976

ダイヤモンド社